

「女」と「男」の組合せ漢字

2019/9/30 TI

1. はじめに

小学生の時に、「木」が2つあれば「林」、3つあれば「森」と木の数の多さと共にそれを表すように組み合わせた漢字（会意文字）が創られたことに大いに感心し納得したものでした。やがて壮年になって、「女」と「男」の組合せ漢字である「𡚢る（なぶる）」、「姦しい（かしましい）」などを知りました。少ない経験と想像力からはその造字に対し「そうなんだろうな」と造字法のすばらしさを認識しました。そして熟年になったこの頃、「女」と「男」のことだから先人たちはもっと多様な漢字を造ったに違いないと思い、インターネットを頼りに少し調べてみました。“女”偏の漢字が沢山あるのに対し“男”を含む漢字はほとんどないことを知り、その背景に関心を持ちました。以下は、簡単なメモとして感想と共に書いたものです。既にご存じの方には無用のものです。

2. “女”偏の漢字が沢山あるのに“男”を含む漢字はほとんどない

女偏の漢字は、常用漢字では以下の35字あります(Ref.1)。一方、“男”を含む漢字は、「甥」と「虜」などごくわずかしかありません。なぜ、「女」偏の漢字が多くあるのでしょうか。

女偏の常用漢字：35字

委威姻媛嫁 嫌娛好婚妻 始姉姿嫉如 孌娠姓婿妥 嫡妬奴妊婆 媒妃姫婦妨 妹妙娘妄妖

“男”を含む常用漢字：2字(?)

甥 [セイ・ショウ/おい]、虜 [リョ/とりこ・しもべ・えびす]

参考：漢字の部首において、「女」はありますが「男」はありません。漢字「男」は、部首である「田（農地）」と「力（農具のすき）」とから成り、「すきで田を耕（たがや）す」の意味です。後に耕作する「おとこ」の意味に使われるようになりました。

先ず「女」は、手を前に重ねて跪（ひざまず）いている女の人の姿（図1参照）の“象形文字（付録A参照）”です。古代において、神のお告げを受ける人は女性であり、女性がいないければ子孫が断絶してしまうというようなことで、漢字の成立過程で女性が大きな役割を占めていました。そのため「女」が部首となり、それを持つ漢字が多く創られたと思われます。

一方、「男」は、田（農地）と力（農具のすき）とから成る“会意文字（付録A参照）”で、「男」の部首はありません。つまり、男の姿自体が、“象形”できるほどの特徴を持っていないものと思われます。影が薄いのです。ここにこそ、「女」偏の漢字が多い本質的な要因があると思われます。

更にいえば、漢字を作った人々は、おそらく男だったので、女の持つ多彩な性質に惹かれ、「女」

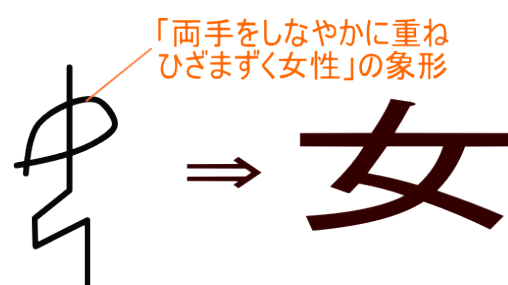


図1 漢字「女」の成り立ち
(Ref.2)

偏の漢字が多く作られたのだとの説明もあります。「女」偏を含め「女」を構成要素とする一部の漢字の字源を紹介した記事がありました。(Ref.3)

媒：男女の結婚の仲人 → なかだち
要：女の腰 → かなめ
奴：女の奴隷 → 奴隷
努：女の奴隷が強く力を入れる → つとめる
怒：女の奴隷が強く心を緊張させる → いかる
安：女を家の中に落ち着かせたさま → やすらか
妥：いきり立つ女を落ち着かせる → ほどよい所に落ち着く
娛：女が笑う姿 → たのしむ
嫌：女が気兼ねして実行をしぶる → いやがる
接：交接する → 接する
始：胎児をはらむ → 物事のはじめ
好：女が子どもをかわいがる → このむ
妙：女の小がらで細く美しい姿 → たえ
姿：女が身づくろいして顔や身なりを整える → すがた
桜（櫻：旧字）：女の首飾りのように花が咲く木
如：女のようにしなやかに言う
威：か弱い女を武器でおどす
委：女が力なく垂れる → ゆだねる
妖：女が身をくねらせ人を迷わす → あやしい（注 1）
妄：女に惑わされ目がくらみ無茶をする
妨：誘惑する女に近づかせまいとする → さまたげる

注 1：あやしい

【妖しい】女性などの魅力を表す場合（女優の妖しい美しさ）

【怪しい】不審な様子を表す場合（怪しい男が出没する）

【奇しい】人の知恵を超えた超常現象（奇しい気配漂う屋敷）

3. 「女」/「男」の組合せ漢字

会意文字の中には同じ漢字を複数組み合わせで構成された文字があります。狭義では、「林」のように同じ漢字を左右に2つないし、「森」のように3つ組み合わせで構成される漢字は、理義字（りぎじ）と呼ばれます。特に、同じ文字を3角形に組合せた形の漢字は、特に、品字様（ひんじよう）と呼ばれます。広義では、4つ以上並んだものや、上下に2つ並んだものを含むこともあります。更に広くは、形態が奇妙な漢字や、面白い形をした漢字のことも理義字と呼ばれています。

ここでは、「女、男」の理義字も含めて、それらの組合せ文字を調べました。漢字の読み方は、音読みと訓読みの順で〔カタカナ/ひらがな〕で示しています。

姦 [コウ、キョウ、ギョウ/]：美しいさま、愛らしいさま

姦 [ダン、ネン/]：わいわいと騒がしく言い争うさま

姦 [カン/みだら・よこしま・かしましい]

姦 [カン]：①不倫をする。女性をおかす。「姦淫・姦通・強姦・相姦・輪姦・和姦」

②正道にそむく。悪賢い。「姦計（かんけい）・姦臣（かんしん）・姦智（かんち）」
女性に限らないのに「女」を3つ組み合わせた「姦」が使われています。

姦 [かしましい]：耳障りでうるさいこと、やかましいこと

「女三人寄れば姦しい」のことわざが生まれています。あまりの騒がしさは、「女三人寄ると富士の山でも言い崩す」のことわざも生まれています。

男 [ノボ] [/たばかり]：「男性が多く集まりだます、男三人集まって謀議する」の意

娼 [ダン、ナン/めおと]：ぺちゃくちゃとしゃべり続けるさま

石川県金沢市に「娼杉町（めおとすぎまち）」という地名があります。

タイトルが『娼の一生（おとこのいっしょう）』という映画があります。

嫖 [ジョウ/なぶる]：男が女を「なぶる」場合に使う漢字（男+女+男）、

男が女につきまとう、なぶる意味を表す会意文字です。

女が男を「なぶる」場合は下記の「嫖 [なぶる；女+男+女]）になります。

「自分より 弱い立場の者などを、面白半分に苦しめたり、もてあそんだりする」というニュアンスがあります。（感想：実に想像力が掻き立てられる漢字です。）

☆1：「猫がネズミをなぶり殺す」や「髪をそよ風がなぶる」といったように、男女の区別がない場合には、「嫖」の字があてられるのが一般的です。

☆2：漢字「嫖」の部首は、「女」です。

嫖 = 嫖

嫖 [ドウ/うわなり、なぶる]：

嫖（うわなり）：後妻のこと

日本の中世から江戸時代にかけて行われた風習に、「後妻打ち（うわなりうち）」とい

うのがあります。夫がそれまでの妻を離縁して後妻と結婚するとき、先妻が予告した上で後妻の家を襲うというものです。歌舞伎の世界では、市川家の十八番、オハコの演目の一つに「嫫（うわなり）」があります。二人の女の間に男がいます。(Ref.4)

「うわなり」が九州の熊本で訛って、「わなんざこ（嫫迫）」という地名になりました。その地名「嫫迫」は、その地に実際にそういう修羅場のような結婚式があったことが由来だと伝えられています。(Ref.5)

嫫（なぶる）：女が男を「なぶる」場合に使う漢字（女+男+女）

嫫（なぶる）と異なり、「たわむれる、もてあそぶ」というニュアンスがあります

中国では古くから「嫫（なぶる）」も「嫫（なぶる）」も同じ意味で使われており、男女間の区別をつける習慣はなかったようです。一方、日本人は、漢字の形から情景や意味を考える風習があり、稀に「嫫るより嫫られたい」などと使う事があるようです。(Ref.6)

漢字には、潜在的に性差別が隠れています。例えば、主人（一家のあるじ）と家内（家の中にいる人）です。男性は家の外で働き、女性は専業主婦が当たり前の古い時代においては、「主人」は夫で「家内」はその妻として使用されていました。今日では通用しないでしょう。熟語に「女医（じょい、にょい）」はありますが「男医」は存在しません。医者、普通は男性と決まっていたからです。

これは、英語において、議長が chairman⇒chairperson に、消防士が fireman⇒fireperson に性差を意識しない言葉に置き換えられた文化に通ずるものでしょう。また、敬称において、Mr（ミスター）が男性、Miss（ミス）が未婚女性／Mrs（ミセス）が既婚女性だと中学校時代の英語の授業で習いましたが、近年では女性は既婚／未婚の別にかかわらず、「Ms（ミズ）」と呼ぶのが主流となってきています。それに加え、近年メジャーになりつつある新しい表現があります。「自分はミズ（女性）でもミスター（男性）でもない」というアイデンティティを持つ人の敬称、「Mx（ムクス）」です。「Mx」は、イギリスの一部自治体の公文書に 2013 年から使われるようになったようです。また、オーストラリアでも 2011 年からパスポートの性別欄で M（male：男性）か F（female：女性）のどちらかだけでなく、X（Mx のこと）「intermediate（中間）」が選択できるようになったそうです（世界初）。性別表記欄に「X」を追加した一番の目的は、性差別を無くすためでした。というのも、パスポートに書かれた性別と外見の違いから誤解やトラブルが起こることがあったからだそうです。海外旅行の際に空港での職務質問や足止めが減ることで、誰もが気兼ねなく旅行できるようになるでしょう。しかし、問題は解決したには至りません。そもそも性別を記載する必要があるのか、「X」という性別を明記することで逆に差別を助長してしまわないか、などの懸念もされています。(Ref.7, 8)

「Mx」の導入に伴い、性別に関する無意識の偏見を見直そうという動きも活発になっています。たとえば王立スコットランド銀行では、パスワードを忘れた時の秘密の質問「母親の旧姓は？」が廃止されました。人は婚姻した男女カップルのもとで育つとは限らず、事実婚、男性同士の結婚、

シングルファザー家庭など多様な家族形態がすでにあるためです。(Ref.8)

漢字の話に戻ります。女偏の漢字には女性蔑視的、男尊女卑的な意味が込められたものが多いという。その代表例としてよく挙げられる漢字が、「姦（カン）」です。確かに、あまり良い意味が与えられていません。例えば、意味「②正道にそむく、悪賢い」を持たせて、姦計・姦臣・姦智などの熟語が創られています。意味②において、性差は存在しないのに。

3. 関連：ことわざ

女性に関することわざにも同様な傾向があるようです。アジダ・シンデさんによると、ことわざにおける視点が女性ではなく男性にあると思われるのが多いということです。男性の立場から女性を見下している、女は知恵が無く馬鹿なものだと決めつけているようなものがあります。例えば、次のようものです。(Ref.9)

女の話は一理限り：女は話題の範囲が狭く限定されていることをいう

女の知恵は鼻の先：女は目先のことしか見ず、遠い将来を考えないということ

女の商談と七の段は割り切れず：七のつく数が割り切れないように、女の商談は決断が遅い

「女心と秋の空」ということわざがあります。天候が変わりやすい秋の空模様に女性の移り気な心を例えたものです。一方、「男心と秋の空」と男性の移り気な心（特に女性に対して）のバージョンもあるのです。男女とも同じような移り気な心をもっているなら、両者相打ちの泥仕合になってしまいますから、わざわざこのような両者のことわざを掲げる必要は無かったのでないかと、単純に思うのです。調べてみますと、これらが生まれ掲げられた背景に時代差がありました。

「男心と秋の空」のことわざができたのは江戸時代。当時は既婚女性の浮気は命を落とすほどの重罪でしたが、既婚男性の浮気には寛大だったこともあり、移り気なのはもっぱら男性だったそうです。また、若い娘に男性を警戒するようにとの戒めや、ふられた際の末練を断ち切る慰めにも使われました。江戸時代の俳人・小林一茶は「はづかしや おれが心と 秋の空」という俳句を詠んでいます。(Ref.10)

その後、明治時代を経て大正になり、大正デモクラシーで女性の地位が向上し、恋愛の価値観も変わってきました。西洋文化の影響で女性が素直に意思表示できるようになったこともあり、この頃から「女心と秋の空」とも言われるようになってきました。ただ、この女心は、愛情に限らず、喜怒哀楽の感情の起伏が激しいことや物事に対しても移り気なことを示しており、男心とは少しニュアンスが違ふようです。現在では、「女心と秋の空」の方がよりポピュラーです。

4. まとめ

漢字についてその字源を楽しむことができたのは、漢字が個々に意味を持つ文字を集めた表意文字（表語文字）であるからです。一方、音声を媒介として意味を伝える文字が“表音文字”です。アルファベット文字を用いる英語などが挙げられます。日本語の「ひらがな」や「カタカナ」も表音文字に当たります。従って、漢字の字源を味わうことは、漢字圏の文化・社会そのものに思いを

巡らすことになります。

中国から漢字が日本伝来し、日本列島において漢字が本格的に使用されるようになったのは4世紀末から5世紀初め頃です。漢字を生み育てたこのころまでの中国を初め、このころからつい最近までの日本において、社会が男性中心であったことを考えれば、「女」偏の漢字が沢山あるのに「男」を含む漢字はほとんどない」のも納得がいくものです。将来は、より性差を意識させない社会に向かって変化していくようであり、これに合わない漢字は次第に使われなくなったり、あるいは性差を意識させない新しい漢字に置き換えられたりしていくものと思われます。

参考記事

- Ref.1 漢字辞典 部首：おんな・おんなへん（女）の漢字（画数順）
(<https://kanji.jitenon.jp/cat/bushu03007.html>)
- Ref.2 漢字/漢和/語源辞典-OK 辞典：「女」という漢字 (<https://okjiten.jp/kanji32.html#a>)
- Ref.3 いんみ〜の部屋；女偏の漢字 男偏の漢字
(https://inme.at.webry.info/201112/article_1.html)
- Ref.4 ウィキペディア；後妻打ち (<https://ja.wikipedia.org/wiki/後妻打ち>)
- Ref.5 笹原 宏之；「謎の漢字を調べる」（視点・論点）
(<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/281881.html>)
- Ref.6 「𪛗（なぶる）」とは？意味や使い方を語源を含めてご紹介
(<https://word-dictionary.jp/posts/512>)
- Ref.7 世界初！ オーストラリアのパスポートに新しい性別表記
(<https://youpouch.com/2011/09/23/080026-4/>)
- Ref.8 Mr や Miss だけじゃない ジェンダーに配慮した新しい敬称 Mx とは？
(<https://wotopi.jp/archives/41474>)
- Ref.9 アジタ・シンデ；女性に関することわざと現代の女性
(https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/3/38899/20160122115732301122/ReportJTP_15_1.pdf)
- Ref.10 三浦康子；「女心と秋の空」と「男心と秋の空」 どちらを使う？意味の違い
(<https://allabout.co.jp/gm/gc/220725/>)

【付録 A】 漢字の成り立ち【象形・指事・会意・形声】まとめ

(<https://homework-recipe.com/kanji-naritati>)

漢字は、どのようにしてできたか、ということをもとにして、以下の四種類に分類されます。

(1) 象形（しょうけい）文字

目に見えるものの形を線でえがいた絵をもとに作られた漢字です。

例：日、月、大、木など

(2) 指事（しじ）文字

形として表しにくいことから、点や線で示し、その図をもとに作られた漢字です。

指事文字は、数が少ないです。

例：上、下など

象形文字に点や線を加えて作られた指事文字もあります。（象形指事ともいう）

本…木の根元に一を加えて「もと」という意味を表す。

末…木の上の方に一を加えて「すえ」という意味を表す。

天…立っている人の上に一を加えて「高いところ＝そら」という意味を表す

(3) 会意（かいい）文字

象形文字や指事文字などを二つ以上組み合わせ、もともとの漢字とは別の意味を表す文字となった漢字です。

岩…「山」と「石」を合わせて、「いわ」という意味を表す。

森…「木」を三つ合わせて、木がたくさんある「もり」の意味を表す。

(4) 形声文字

発音を表す漢字と、意味を表す漢字が組み合わせられてできた漢字です。

漢字の80%以上は、形声文字です。

晴…「日」と「青」を組み合わせた文字。発音を表す部分は「青（セイ）」

問…「門」と「口」を組み合わせた文字。発音を表す部分は「門（モン）」。

「口でたずねる」という意味を表す。

味…「口」と「未」を組み合わせた文字。発音を表す部分は「未（ミ）」。

未は「うつくしい、うまい」という意味で、口でおいしいものを「あじわう」という意味を表す。